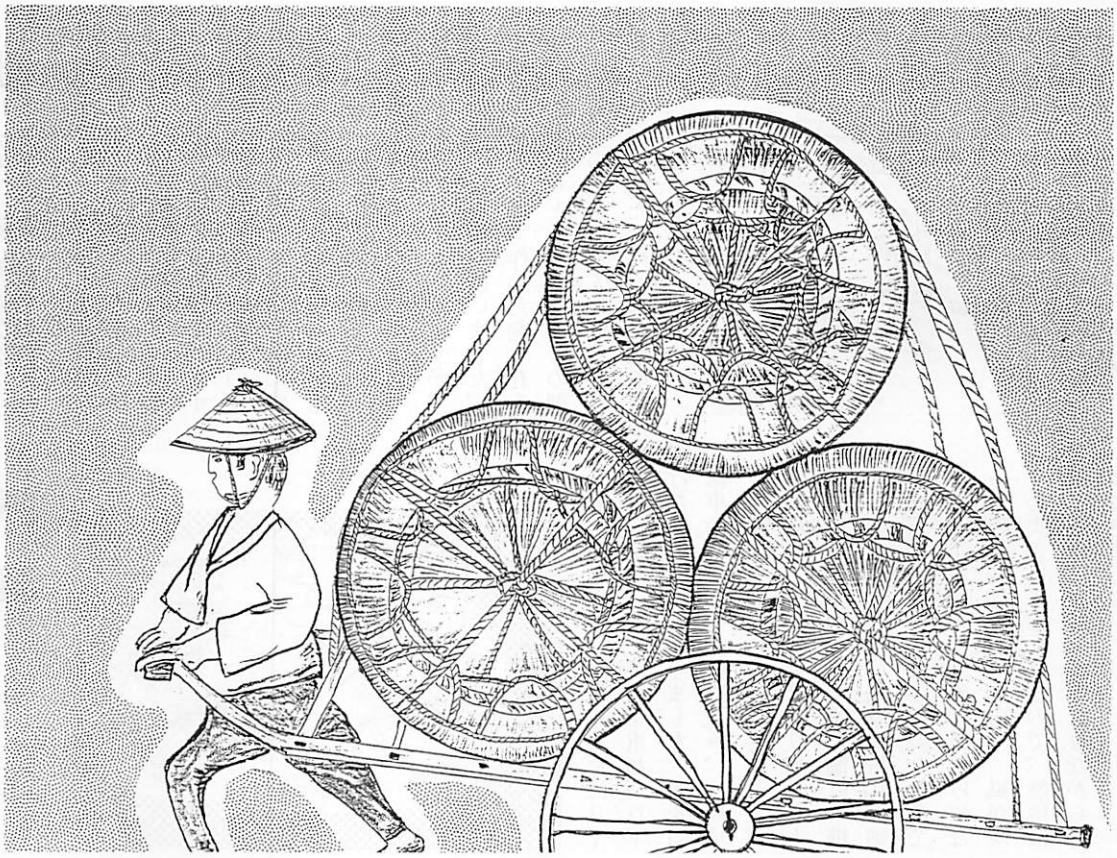
みず　ぐるま

水車

(財)新松戸郷土資料館館報　第11号



財団法人　新松戸郷土資料館

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸3－27

新松戸市民センター（三階）

電話　047－344－1909

発行年月日　平成10年3月末日

もくじ

灰屋……表紙

下谷に来た行商人

◇削り花と神の膳売
　篩屋・鋳掛屋・豆腐屋……2

◇魚屋・剝身屋・唐箕売
　目立屋・箕の修理・お茶売……3

◇蓑笠売・束子売・乾物屋
　反物屋・桶屋……4

◇座卓売・鎌売・灰屋・小間物屋・鳥屋…5

◇行商人の分布図……6～7

◇日誌抄・館利用案内・編集後記……8

下谷に来た行商人

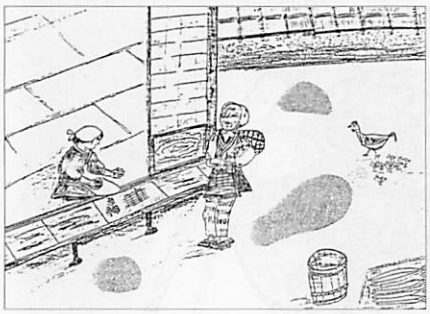
現在の街では、何処へいっても商店があり、生活必需品に困るというようなことはありませんが、昔の村には商店と言われるものは殆どなくあったとしても、必要最低限の品物があるという程度でした。下谷も馬橋や、松戸または流山といった所に買物にでかけました。

農繁期などにはその時間も惜しいほどの忙しさになるので、行商がきてくれることは有難いことでした。

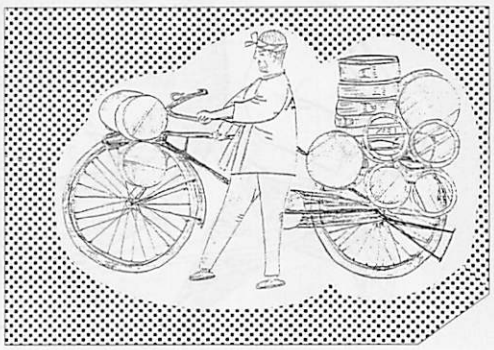
行商人は季節ごとにやって来る人や、三日に一度くる人や収穫期の現金収入のあった時にやってくる人などいろいろな行商人がいました。また広範囲に行商をして歩く商人からは、いろいろな地域の情報なども得ることができました。

削り花と神の膳売

十二月になると早々に古ヶ崎の方から正月用の削り花と、神の膳を毎年売りにきました。神の膳は、経木の皮で出来た簡単な器で、それを十個ずつ束ねてありました。正月の三が日に朝食と昼食を神棚にお供えする為のもので、なくてはならないものでした。削り花は六ヶ村でもいろいろ風習が違い、花のついたままの椿の木を使う所などもありますが、大谷口新田では川柳を使いました。その枝に同じ川柳で作った削り花を挿し、繭玉飾りとしました。この削り花を自分の家で作る人もいましたが、大抵は出来たものを買う家の方が多かったようです。



篩屋

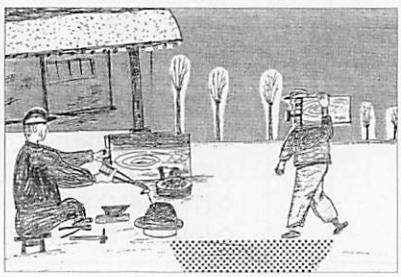


暮れになると、自転車またはリヤカーに篩（ふるい）や、笊（ざる）・蒸籠（せいろ）を重ねたり下げたりした商人がきました。笊を自転車の形が判らない程積み、江戸川区の篠崎方面から売りにきました。篠崎笊は、一般の竹笊より当りがよく使い易かったそうです。篩は、糠通し・米篩・籾篩・絹篩（粉状の細かいものを篩う）など必要なものでした。下谷は水田地帯で風除けになるものが一切なかったので、風が吹くと吹きさらしとなるので、篩屋は笊ごと飛ばされそうになりながら行商にきました。

鋳掛屋

鋳掛屋は小金から年に二回ほど回ってきました。鞴（ふいご）を肩に担ぎ、「何か鋳掛けるものはないか」と声を掛けながら一戸一戸をまわってきました。少しの鋳掛物を頼んでは世間話をすることが、お互いに一番の楽しみだったようです。鋳掛屋は商売の範囲が広いので、話題も豊富で村の人達は鋳掛屋がくるのを心待ちにしていました。

豆腐屋



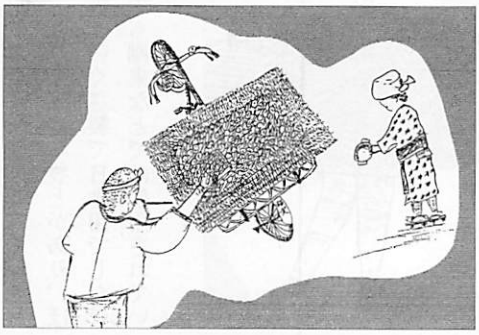
豆腐屋は馬橋の方から四・五日おきに売りにきました。祭や祝い事などがあるときは、何日か前に注文を取りにきました。この豆腐屋は現在でも同じ所で商いをしています。

魚屋

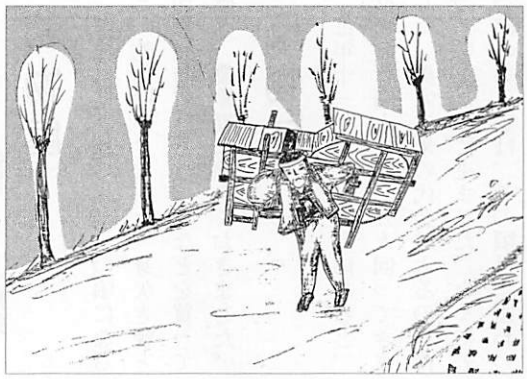
船橋から魚屋はきました。うるめ鰯などを数える時に「ヒト・ヒト・フタ・フタ・ミセー・ミセー」と大声で数えるので子ども達は面白がり人気がありました。この魚屋は、寒い時期だけきたようです。馬橋から来る魚屋は、四・五日おきに売りにきたり注文を取ったりしていました。人柄の良い魚屋の番頭さんでした。

剝身屋

一月から五月にかけて浦安から行商にきました。自転車の番匠籠に苧(お)経(だて)を敷き剝身を入れ、五合瓶の底を半分にしたような升で計りました。その升一杯がいくらという値段でした。触れると少し動く位の新鮮なものを朝早く売りにきました。



唐箕売

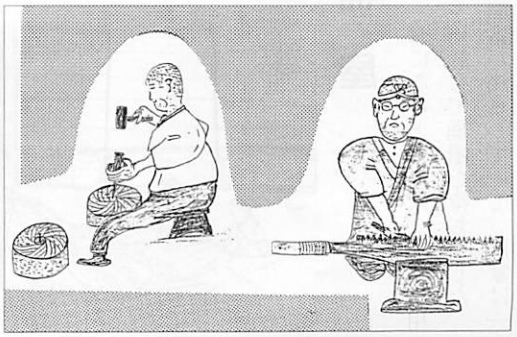


背に大きな唐箕を背負って一戸一戸売りにきました。風の強い日はあおられて大変だったといいます。上総唐箕といって性能が優れたもので、君津から馬橋止めに数台送っておき、一台ずつ背負って売りました。松戸産の唐箕は重くて上総唐箕より品質が落ちたものでした。

目立屋

碾臼の目立屋が四・五年に一度位回ってきました。鑿で目を立て真の部分のゆるみなどを修理してまわりました。鋸の目立屋は毎年きました。

箕の修理

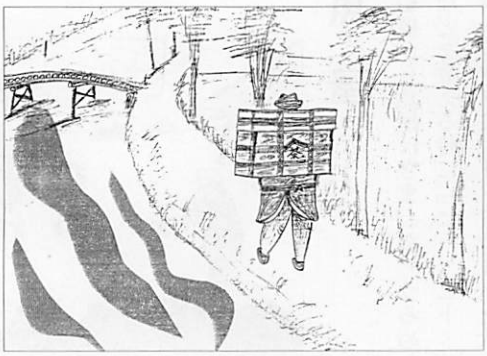


箕直しは、野田の山崎から毎年同じ人が春夏二回きました。四・五戸の家の箕を集め、いつも決まった家の軒先を借りて修理し、夕方に返しながら代金をあつめました。ときには注文なども受け、箕の傷みの激しい農家は年二回来る箕直しを心待ちにしていました。

お茶売

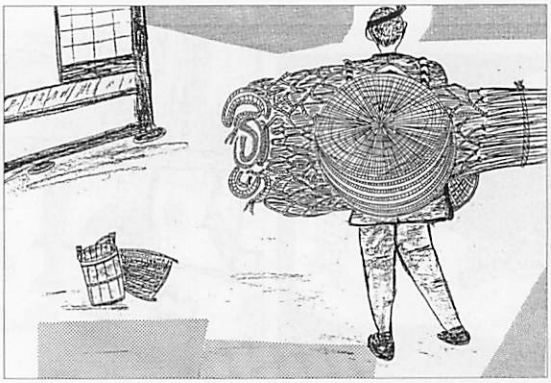
六月になると、流山の佐野屋というお茶屋が見本を持って一年分のお茶の注文をとりにきました。品物は、後日に背負って配達にきました。

蓑笠売



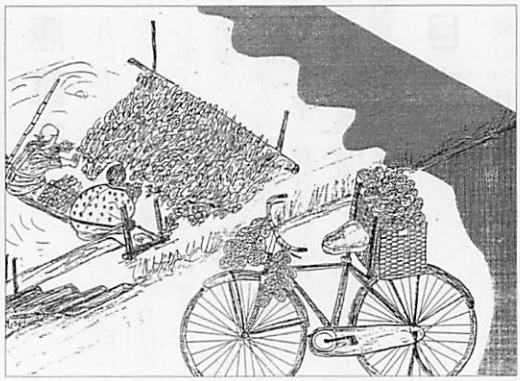
豊四季から三月頃になると毎年同じ人が蓑笠を売りにきました。蓑笠は豊四季方面で作られていました。笠は、菅笠とぼっち笠とがあり、ぼっち笠はいぐさ製で日傘用でした。いまでも潮來などでは使用されています。

束子売



これは、東京の下町から売りにきました。自転車の後ろの荷台や、ハンドルなどに吊るし、十五、六種類の束子を売りにきました。野菜を洗う時に必要なもので、野菜の種類によって使い分ける為いろいろな種類がありました。使う束子によってどんな野菜をどこで作っているのかが分かりました。束子売は売り歩く範囲が広いので農業の情報を知る上でも楽しみな行商人でした。

乾物屋

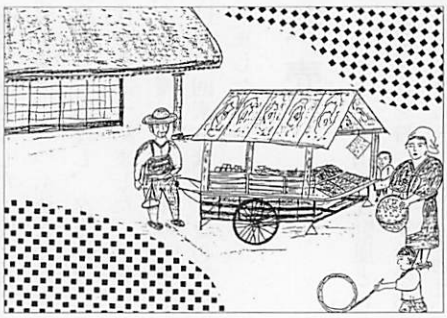


田植え前と秋の稲刈りの頃になると、乾物屋がきました。身欠き鰊と切り昆布、ひじき、豆などを買って置き、農繁期に備えておきました。

反物屋

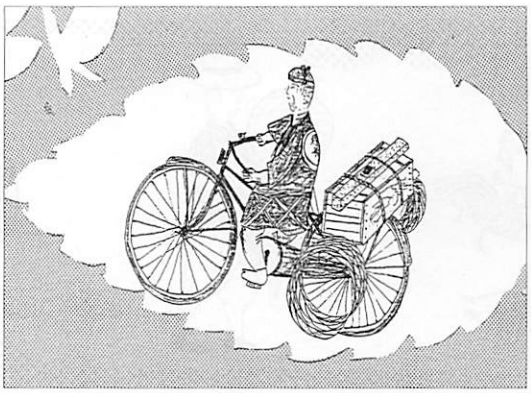
毎年十一月か十二月頃になると、反物の行商人が四、五人回ってきました。農家に米の代金が入るのを待っていたように來ました。とくに若い娘のいる家は、その頃は、賑わっていました。

桶屋



十一月になると、農家では修理用の竹を用意して桶屋を待ちました。回る順番が決まっていて、農家は一

年間使用した桶や、肥たごなどを修理してもらいました。漬物用の樽や農具は、毎年修理が必要でした。

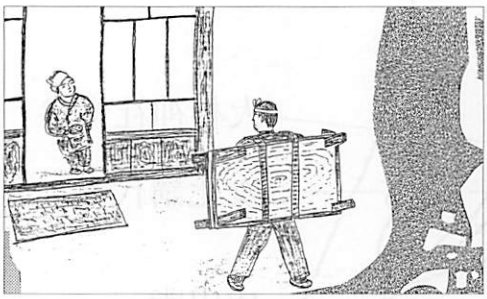


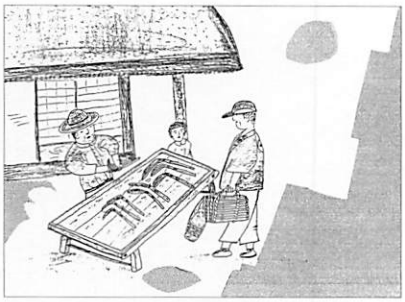
座卓売

戦後になり、農家の生活が少し変わり始めました。お膳から座卓に食卓が変わりはじめ、よく座卓売りが来るようになりました。米と物々交換をする家もありました。しかし、ほとんどの家に普及してしまい、四、五年もたつと来なくなりました。

鎌売

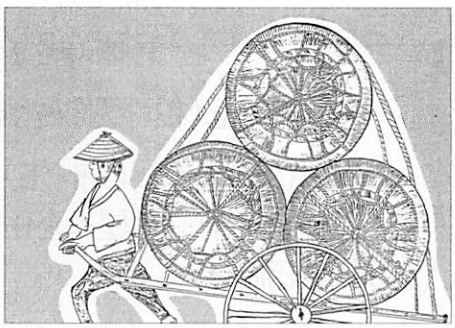
稲刈り前になると、毎年鎌売りがやってきました。新潟の三条製で品物に当たりはずれがないことと、軽く使い良いことなどで信用がありました。稲刈鎌、よで鎌、鋸鎌の三種類を持ってきていましたが、鋸鎌はこの辺りでは使用しませんでした。





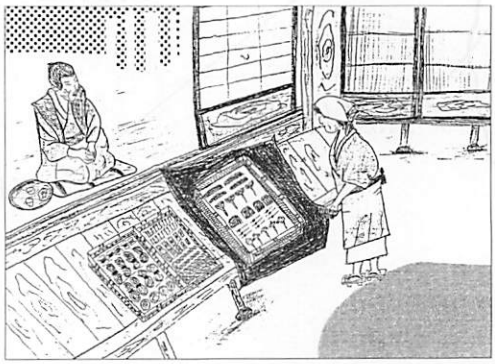
灰屋

下谷には、二、三軒の灰屋があり、灰が溜った頃を見計らってきました。直径一メートル四〇センチもある大きな俵を持参し、一俵いくらという形で買い取っていきました。灰屋は、家に持ち帰り詰め変えて畑の肥料として売り、副業にしていました。詰め変える時に俵の回りはしっかり詰め、中はふわりと入れていかにもたくさん詰まっているようにして利益を得ていました。



小間物屋

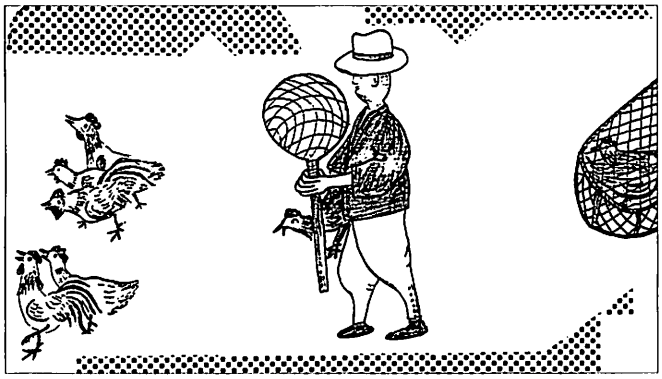
冬の農閑期になると、小間物屋の東屋という商人がきました。農家では農閑期になると女の人達は家の中で針仕事に精をだします。そのために糸や針などを売りにきました。

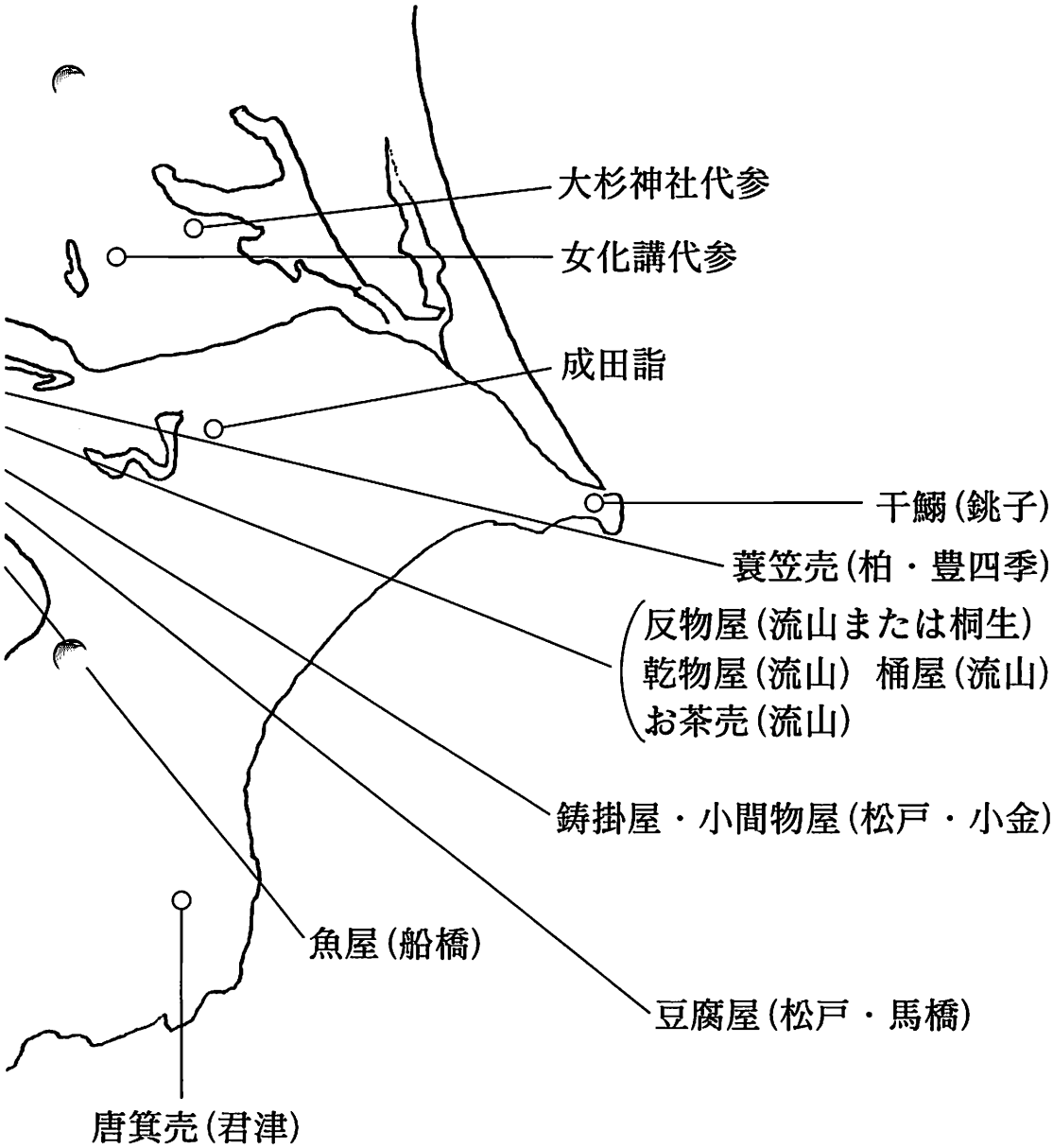


鳥屋（ばった屋）

戦前までの農家では、年寄りの小遣稼ぎのひとつとして、一軒で一四、五羽の鶏を飼っていました。飼育、管理には粃（しいな）、青米、野菜の屑菜などを飼料にします。飼料の量にあわせて鶏を飼育し、飼料が不足する頃になると、鳥屋に売るということをしていました。下谷にきた鳥屋は松戸の角町の人で、自転車に一メートル五〇センチ位の幅で高さが二五センチ位のばった籠という籠を積んでき

ました。その竹籠に太い紐がかけてありました。鶏は、放飼いが多かったので捕まえる為の玉網を積み、年に六、七回回ってきました。そのばった屋が来ると鶏は判るらしく、けたたましく鳴きだします。その声を聞き付け隣家の鶏も警戒して鳴きだすのでにぎやかになり、ばった屋がきているのが遠くの方からでも判りました。





妙義山代参
鎌売(新潟・三条)
三峯山代参
箕の修理(山崎)
灰屋(下谷)
削り花と神の膳売(松戸・古ケ崎)
鳥屋(松戸・角町)
束子売(江東区・亀戸)
篩屋(江戸川区・篠崎)
大山代参
剝身屋(浦安)

行商人の分布図

日誌抄

平成9年

1・8	全体会議
〃・9	松戸市河川課来館
〃・14・16・17	新松戸南小学校五年生見学
〃・18	新松戸南小学校五年生見学 館長講演（子供劇場）
〃・21	研修（千葉県立関宿城博物館・報恩寺）
〃・23	新松戸南小学校三年生見学
〃・29	松戸市社会教育課来館
2・5	全体会議
〃・12	小金北小学校先生来館
〃・13	新松戸北小学校三年生見学 横須賀小学校三年生見学 地域と考える川づくり懇談会館長出席
〃・22	NHK文化センター柏来館
〃・26	小金北小学校三年生見学
3・1	旭町小学校三年生見学
〃・5	全体会議
〃・10	研修（荒川・隅田川視察）
〃・12	新松戸北小学校生徒見学
〃・28	理事会
4・2	全体会議
〃・6	大谷口歴史公園開園式館長出席
〃・10	松戸市社会教育課来館
4・24・25	馬橋北小学校三年生見学
5・7	全体会議
〃・8	新松戸西小学校三年生見学 館長講演（新松戸北中学校）
〃・15	幸谷小学校三年生見学
〃・16	公開講座「水質とこれからの川づくり」講師上野久氏
〃・25	ビオトープ会議
〃・29	理事会
〃・31	新松戸北小学校二年生見学
6・4	全体会議 堀・ビオトープ現地調査
〃・7	ビオトープ会議
〃・11	館報10号刊行 葛飾郷土博物館学芸員来館 オークラ集古館来館
〃・19	松戸市河川課来館
〃・22	松戸市立博物館学芸員来館
〃・25	館報発送
7・2	全体会議 青年会議所より取材
〃・16	研修（東郷神社）
〃・16～30	博物館実習生研修
〃・19	葛飾郷土博物館学芸員来館
〃・21・22	第14回夏休み子供歴史教室
〃・27	河川愛護団体・食文化を守る会の交流会（新松戸中央公園）
8・6	全体会議
8・22	柏市役所来館
〃・27	さいたま川の博物館視察 館長出席 子供歴史教室再会日
9・3	全体会議 六実第三小学校先生来館
〃・4	新松戸南中学校三年生見学
〃・17	千葉県教育委員会監査
〃・20・21	ビオトープ・堀に橋を架ける
10・1	全体会議
〃・2	館長講演（和名ケ谷小学校）
〃・16	六実第三小学校四年生見学
〃・23	松戸市総合計画策定懇談会 館長出席
〃・24	地域と考える川づくり懇談会館長出席
11・5	全体会議
〃・20	松戸市総務課来館 千葉県庁に陳情（松戸市河川課・河川愛護団体）
〃・21	貝の花小学校四年生見学
12・3	全体会議
〃・6	ビオトープ会議
〃・18	川づくり懇談会館長出席
〃・19	新坂川環境整備会議館長出席
〃・25	松戸市教育長来館
〃・27	仕事納

〈資料館利用のご案内〉

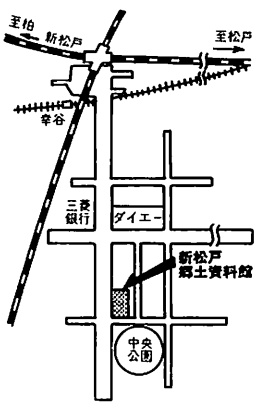
▽開館日　毎週水曜～日曜日

▽時　間　10時～16時（ただし、入館は15時30分迄）

▽入館料　無料

▽所在地　松戸市新松戸3－27
新松戸市民センター3階

▽電　話　☎344・1909



編集後記

現在のこの街には、行商人といえるかどうか判らないが豆腐屋と、魚屋が来る。個別に売りに歩くのではなく、大きな通りの角に車を止めて買手を待っている。結構大型店舗に飽きた人や、小人数の家族の家には都合が良いらしく案外繁盛している。

下谷に来た行商人のカットは、子供の頃の記憶をたどっていただいて当資料館の大井館長にお願いした。